

インターバンクの声（2015年7月30日）

日本時間の未明（午前3時）に発表された米連邦公開市場委員会（FOMC）の声明は、労働市場や住宅部門の改善を指摘したものの、インフレ率は委員会の中長期的な目標を下回る水準が続いているとした。今回の会合で利上げが決まらないのは予想通りだったが、一部には期待感も残っていた利上げ時期への明確なシグナルの提示も見送られた。特に利上げシグナルが示されることを警戒していたニューヨーク株式市場は、声明の発表後、それまでの買い控えから一転して買い意欲が強まった。声明の発表前後の為替市場の動きは、この株式市場の反応にリンクするような値動きだった。株式市場での値下がりが避けられたことで、ドルが買い上げられる格好になったが、それでもドル円は124円に戻るのがやっと。125円どころか黒田シーリングと呼ばれ始めた124円50銭にも届きそうにない。為替アナリストやエコノミストは、この後もFOMCの声明文を一言一句チェックしながら9月か12月の利上げを読むことになるのだろう。足許で直近のレンジを抜け出すためには、今晚の米第2・四半期GDP速報の結果が予想を大きく外れることが必要かも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。